#### 地域文化財総合活用推進事業 実施計画

1 都道府県・市区町村名	広島県・尾道市	2 補助事業の種類	地域文化遺産活性化	
3 実施計画の名称	尾道市文化遺産を活用	した地域活性化	計画の改善時期】 平成 3 1 年度	
4 実施計画期間	平成 31 年度	~ <b>平成</b> 35	年度 5年以内としてください。	

### 5 実施計画の概要

尾道教育総合推進計画(平成22年度策定)及び尾道市歴史文化基本構想(平成22年度策定)並びに尾道市歴史的風致維持向上計画(平成23年度策定)を踏まえ、地域の文化遺産の次世代への継承・発展や、文化遺産を活用して地域活性化を推進するため、下記の取組を実施する。

また、実施計画期間中は、下記の取組を通じて、地域全体で文化遺産を保存・継承し、活用していくための体制の確立を目指 す。

- 1. 尾道文化遺産の祭典の開催
- 2. 市内文化遺産映像記録事業
- 3. 民俗芸能の総合的な情報発信事業
- 4. 尾道文化遺産コーディネーターの養成・尾道文化遺産塾の開催

#### 6 実施体制

尾道市が、本実施計画に係る全体の調整や、各補助事業に係る指導等を行う。主な担当課、役割は下記のとおり。企画財政部文化振興課:各補助事業における文化財の取扱等に関する指導・調整等 また、補助事業は次の団体が実施する。尾道文化遺産塾実行委員会[委員長:稲田全示] 構成団体(尾道市立大学、池坊広島県連、尾道学研究会、公財)日本民謡協会、尾道もりあげ隊、尾道観光協会、一社)日本伝統芸術国際交流協会)

# 7 実施計画における目標と期待される効果 別紙①のとおり

8 補助事業の概要(1) 補助金額~平成30年度交付決定額: 2,410 千円平成31年度申請額: 3,013 千円

(2) 実施事業の概要 別紙②のとおり

#### 9 その他計画実施により想定される効果 (定性的な効果を記載)

地域の文化遺産に対する市民の関心や愛護意識が向上し、地域の文化遺産の保存や、次世代への確実な 継承が図られるとともに、地域の活性化が期待できる。また、行政と民間団体、文化財保護団体による 連携・協力体制が構築される。

#### 10 その他事業(自主財源、民間団体、他省庁等からの補助(支援)を予定している事業など)

事業概要: 地元ケーブルテレビの協力を得て、本計画に関する特集番組を制作・放映(予定)する。

事業概要: 尾道市史編さん事業により文化遺産を詳細に解説した冊子を刊行する。

11「文化財保存活用地域計画」の作成・認定や「文化財保存活用大綱」の策定、「歴史文化基本構想」の策定 や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等

歴史文化基本構想及び歴史的風致維持向上計画は策定・認定済である。

### 12 担当部局

地方公共団体 担当部局課 尾道市企画財政部文化振興課

# 7 実施計画における目標と期待される効果 別紙

			/ 天旭計	<b>凹における日</b> 様	*C知はられる効果	: 別紙		
目標区分1:	地域の文化資源を	活用した集客・交流						
評価指標区分1:	地域の文化遺産関	<b>孫資料館、博物館等</b>	の年間入館者	数(具	体的な指標は次のと	おり)		
具体的な指標1:	おのみち歴史博物 民俗資料館の入館	勿館、因島史料館、 官者数	瀬戸田歴史	関連事業:	おのみち歴史博物館	特別展		
目標値1:	【現状値】 平成	30 年度 26,000	(人) ⇒	【目標値】 平成	35 年度 36,000	) (人)		
設定根拠1:	3館で年間2, (	00人の入館者は	曽					
進捗状況1:		各年度,	状況値,目標	に対する達成率				
平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34	年度 平成 3	5 年度 平成 36			
(人)	(人)	(人)		(人)	(人)	(人)		
目標区分2:	地域の文化資源を	┃       	     ィの再生・活					
	地域の文化遺産へ		7 717 11		体的な指標は次のと	おり)		
具体的な指標2:	おのみち歴史博物	勿館、爽籟軒庭園、	尾道商業会		おのみち商業会議所			
	議所記念館の入館		(人) ⇒		企画展 35 年度 51,000	(1)		
目標値2:				【目標値】 平成	35 年度 51,000	) (人)		
設定根拠2:	2: 3館で年間2,000人の入館者増							
進捗状況2:		各年度,	1	に対する達成率	5 <b>5 5</b> 7 3 00			
平成 31 <b>年度</b> (人)	<b>平成</b> 32 <b>年度</b> (人)	<b>平成</b> 33 <b>年度</b> (人)	平成 34	年度   平成   3     (人)	5 <b>年度 平成</b> 36 (人)	<b>年度</b> (人)		
	()()	()()				()()		
目標区分3:	3:       伝統文化の継承体制の維持・確立							
評価指標区分3:	: 地域に誇りを感じる住民の割合 (具体的な指標は次のとおり)							
具体的な指標3:	イベント等でのアンケートによる集計       関連事業:       文化財講座							
目標値3:	【現状値】 平成	30 年度 54	(%) ⇒	【目標値】 平成	35 年度 79	(%)		
設定根拠3:	毎年5%の割合は	首						
進捗状況3:		各年度,	状況値, 目標	に対する達成率				
平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34	年度 平成 3	5 年度 平成 36	年度		
(%)	(%)	(%)		(%)	(%)	(%)		
	地域の大仏次派え	大い たっこ	一	. htt- // c				
目標区分4:					けぬかも無けなのし	+> (1)		
評価指標区分4:		る最寄駅の乗降者者 	<del></del>		体的な指標は次のと			
具体的な指標4:	JR尾道駅の年間列		(1)	関連事業:	日本遺産魅力発信推			
目標値4:		80 年度 440,000	(人) ⇒	【目標値】 平成	35 年度 450,00	0 (人)		
		<b>冬</b> 年度	状況値, 目標	に対する達成率				
進捗状況4:	T. # 00 5-		1	<u> </u>		<b></b>		
進捗状況 4 : 平成 31 年度 (人)	平成 32 年度		平成 34		5 <b>年度 平成</b> 36	<b>年度</b> (人)		

## 8(2) 実施事業の概要 別紙

(人)									
電道文化遺産総合活性化プロジェクトの成功のため、地域の歴史、伝統文化、工芸、芸能などについて学び、尾道の文化遺産の魅力の紹介に取り創む市民ボランティアである   Ri立な代遺産コーディネーターの養成謙廃卒年6回程度開催する   Ri立な代遺産コーディネーターの養成謙廃卒年6回程度開催する   Ri立な円遺産 コティアカイド育成講座修丁者の後年度活動者数   (具体的な指標は次のとおり) の選合委員などに育成し活動を維続する   (具体的な指標は次のとおり) の選合委員などに育成し活動を維続する   接域担 平成 35 年度   平成 35 年度   平成 36 年度   日標値: 「探域担 平成 30 年度 300 仏 ) コード   日標位   平成 35 年度   中成 36 年度   平成 37 年度   平成 37 年度   平成 37 年度   平成 37 年度   平成 38 年度   平成 37 年度   平成 38 年度   平成 39 年度   下記 文化遺産をとに、「私料等地の大学、トラインを対象性を完全した。」 「日曜時間に、大学の会話で開催し、多くの市民の参加を変え、・一地域の文化遺産ペント等(本事業の政能を完全して、「おける日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、	<b>事業①</b> : 尾道ス	文化遺産コーディネーターの養成講座	実施団体: 尾記	道文化遺産塾実行	委員会				
事業概要: 能などについて学び、尾道の文化造産の魅力の紹介に取り組む市民ボランティアである   尾道文化遺産コーディネーターの養成諸摩を作 6回程度開催する。	事業区分:	人材育成	事業期間: 平	成 31 年度 ~	平成 35 年度				
具体的な指標: 講座参加者中から約50名を目標として、ボランティアリーダーとして「尾道文化遺産 上のり」の選替委員などに育成し活動を継続する   14様値: 14枚で   30年度   300 (人)   30年度   300 (人)   30年度   305年度   1,000 (人)   30年度   30年度	事業概要:	: 能などについて学び、尾道の文化遺産の魅力の紹介に取り組む市民ボランティアである							
日標値: 「現休世」平成 30 年度 300 (人) ⇒ 【日標世】平成 35 年度 1,000 (人) 進捗状況:	評価指標区分:								
進捗状況: 各年度 状況値。目標に対する達成率  平成 31 年度 平成 32 年度 平成 33 年度 平成 34 年度 平成 35 年度 平成 36 年度  (人)	具体的な指標:			ィアリーダーとして	て「尾道文化遺産				
平成 31 年度 平成 32 年度 平成 33 年度 平成 34 年度 平成 36 年度 平成 36 年度 (人)	目標値:	【現状値】 平成 30 年度 300	(人) ⇒ 【目標値	<b>直】 平成</b> 35 年	度 1,000 (人)				
(人)	進捗状況:	各年度,状	:況値, 目標に対す	- る達成率					
事業②: 「尾道文化遺産まつり・2 0 1 9」の開催   実施団体: 尾道文化遺産塾実行委員会   事業の 31 年度 ~ 平成 35 年度   下虚立くに順度まつり・2 0 1 9」を開催し、その期間中、文化財施設などに、依認会に必要は、表記を表した。	平成 31 年度	平成 32 年度 平成 33 年度	平成 34 年度	平成 35 年度	平成 36 年度				
事業因分	(人)	(人) (人)	(人)	(人)	(人)				
事業区分: 普及啓発									
**・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	事業②: 「尾道	道文化遺産まつり・2019」の開催	実施団体: 尾流	道文化遺産塾実行	委員会				
************************************	事業区分:	普及啓発	事業期間: 平	成 31 年度 ~	平成 35 年度				
具体的な指標:   ソーシャルキャビタル数(協賛企業・団体、賛同者等)	事業概要:	や体験講座など、文化財の魅力を紹介する市 い場所や、その会場で地元の伝統芸能の上演 参加を募る。	可民まつりを開催する 質や衣食住をテーマに	る。尾道市の文化財を こ文化遺産まつりを開	開放し、普段入れな				
遺産まつり」に興味と理解を深め、参加者の増加を目指す。   日標値: 「現状値」平成 30 年度 300 (人) ⇒ 【目標値】平成 35 年度 1,000 (人)	評価指標区分:			<sup>3ける</sup> (具体的な指	f標は次のとおり)				
目標値: 【現状値】 平成 30 年度 300 (人) ⇒ 【目標値】 平成 35 年度 1,000 (人) 進捗状況:	具体的な指標:				市民が「尾道文化				
平成 31 年度 平成 32 年度 平成 33 年度 平成 34 年度 平成 35 年度 平成 36 年度	目標値:				度 1,000 (人)				
(人)	進捗状況:								
事業③: 尾道文化遺産・寺子屋塾	平成 31 年度	平成 32 年度 平成 33 年度	平成 34 年度	平成 35 年度	平成 36 年度				
事業区分: 普及啓発  事業概要: 「尾道文化遺産まつり・2019」開催期間中に次世代継承のために、地域の親子が伝統文化、芸能などを楽しく分かりやすく学び、体験できる機会として、ワークショップや文化遺産親子スタンプラリーを開催する。子どもたちが文化財を訪れ、文化財の解説を聞いたり、地元の伝統芸能や文化財を活用したアーティストによるワークショップなどを体験したりすることによって、文化遺産に親しむ機会をスタンプラリーの形態で楽しく参加できるようにする。  評価指標区分: ・地域の文化遺産イベント等(本事業の取組を除く)における ソーシャルキャピタル数(協賛企業・団体、賛同者等)  具体的な指標: 継続で開催し、新聞、テレビなど、市民の人々に広く広報し、多くの市民が「尾道文化遺産まつり」に興味と理解を深め、参加者の増加を目指す。  目標値: 【現状値】平成 30 年度 6 (回) ⇒ 【目標値】平成 35 年度 10 (回)  進捗状況: 各年度、状況値、目標に対する達成率  平成 31 年度 平成 32 年度 平成 33 年度 平成 34 年度 平成 35 年度 平成 36 年度  6 (回) 7 (回) 8 (回) 9 (回) 10 (回) 11 (回)	(人)	(人) (人)	(人)	(人)	(人)				
事業区分: 普及啓発  事業概要: 「尾道文化遺産まつり・2019」開催期間中に次世代継承のために、地域の親子が伝統文化、芸能などを楽しく分かりやすく学び、体験できる機会として、ワークショップや文化遺産親子スタンプラリーを開催する。子どもたちが文化財を訪れ、文化財の解説を聞いたり、地元の伝統芸能や文化財を活用したアーティストによるワークショップなどを体験したりすることによって、文化遺産に親しむ機会をスタンプラリーの形態で楽しく参加できるようにする。  評価指標区分: ・地域の文化遺産イベント等(本事業の取組を除く)における ソーシャルキャピタル数(協賛企業・団体、賛同者等)  具体的な指標: 継続で開催し、新聞、テレビなど、市民の人々に広く広報し、多くの市民が「尾道文化遺産まつり」に興味と理解を深め、参加者の増加を目指す。  目標値: 【現状値】平成 30 年度 6 (回) ⇒ 【目標値】平成 35 年度 10 (回)  進捗状況: 各年度、状況値、目標に対する達成率  平成 31 年度 平成 32 年度 平成 33 年度 平成 34 年度 平成 35 年度 平成 36 年度  6 (回) 7 (回) 8 (回) 9 (回) 10 (回) 11 (回)									
	<b>事業③</b> : 尾道文化遺産・寺子屋塾 <b>実施団体</b> : 尾道文化遺産塾実行委員会								
事業概要: りゃすく学び、体験できる機会として、ワークショップや文化遺産親子スタンプラリーを開催する。子どもたちが文化財を訪れ、文化財の解説を聞いたり、地元の伝統芸能や文化財を活用したアーティストによるワークショップなどを体験したりすることによって、文化遺産に親しむ機会をスタンプラリーの形態で楽しく参加できるようにする。 ・地域の文化遺産イベント等(本事業の取組を除く)における ソーシャルキャピタル数(協賛企業・団体、賛同者等)  具体的な指標: 継続で開催し、新聞、テレビなど、市民の人々に広く広報し、多くの市民が「尾道文化遺産まつり」に興味と理解を深め、参加者の増加を目指す。  目標値: 【現状値】 平成 30 年度 6 (回) ⇒ 【目標値】 平成 35 年度 10 (回)  進捗状況: 各年度、状況値、目標に対する達成率  平成 31 年度 平成 32 年度 平成 33 年度 平成 34 年度 平成 35 年度 平成 36 年度 6 (回) 7 (回) 8 (回) 9 (回) 10 (回) 11 (回)	事業区分:	,							
評価指標区分: ソーシャルキャピタル数 (協賛企業・団体、賛同者等) (具体的な指標は次のとおり) 具体的な指標: 継続で開催し、新聞、テレビなど、市民の人々に広く広報し、多くの市民が「尾道文化遺産まつり」に興味と理解を深め、参加者の増加を目指す。	事業概要:	りやすく学び、体験できる機会として、ワークシ 財を訪れ、文化財の解説を聞いたり、地元の伝統 験したりすることによって、文化遺産に親しむ機	ョップや文化遺産親子 芸能や文化財を活用し 会をスタンプラリーの	スタンプラリーを開催す たアーティストによるり 形態で楽しく参加できる	rる。子どもたちが文化 ワークショップなどを体				
	評価指標区分:	這種IX 会・1 - 1   日本以上に関する。 1   日本に対する。 1   日本に対す							
目標値: 【現状値】 平成 30 年度 6 (回) ⇒ 【目標値】 平成 35 年度 10 (回)       進捗状況:     各年度, 状況値, 目標に対する達成率       平成 31 年度 平成 32 年度 平成 33 年度 平成 34 年度 平成 35 年度 平成 36 年度       6 (回) 7 (回) 8 (回) 9 (回) 10 (回) 11 (回)	具体的な指標:	継続で開催し、新聞、テレビなど、	市民の人々に広く		市民が「尾道文化				
平成     31     年度     平成     32     年度     平成     33     年度     平成     34     年度     平成     35     年度     平成     36     年度       6     (回)     7     (回)     8     (回)     9     (回)     10     (回)     11     (回)	目標値:				度 10 (回)				
6 (回) 7 (回) 8 (回) 9 (回) 10 (回) 11 (回)	進捗状況: 各年度、状況値、目標に対する達成率								
	平成 31 年度	平成 32 年度 平成 33 年度	平成 34 年度	平成 35 年度	平成 36 年度				
0% 25% 50% 75% 100% 125%	6 (回)	7 (回) 8 (回)	9 (回)	10 (回)	11 (回)				
20/0 100/0 100/0	0%	25% 50%	75%	100%	125%				